

---

# 紅葉

あると

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

紅葉

### 【コード】

N66970

### 【作者名】

あると

### 【あらすじ】

街の中にも、秋を感じさせるものを見つけました。

肌寒い季節になってきた。

夕方になると強い風が頬を打つようになる。

舞い上がった砂埃に、私は思わず目をふさいだ。

瞼を閉じるのが、少し遅かったみたいだ。細かい埃が目の中に入っていた。

よく、鈍くさいと言われる。反射神経も人より鈍いらしい。自分ではよくわからないのだけれど。

ポケットからハンカチを取りだして、目元を拭った。涙と一緒に埃も取れた。

目をしばたたかせ、秋の街路樹を見上げると、ゆらゆらと紅葉した葉っぱが落ちてくるところだった。

何とはなしに目で追った。葉っぱは風に揺れながら、歩道の上に落ちた。

地面は赤色に染まっていた。

色鮮やかな赤。

隙間なく敷き詰められた赤。

たくさんの人が血を流していた。

「生き残りがいるぞ！」

銀色の服を着た人がこつちを見ていた。赤い斑点が服を汚していた。なんだか怖くて、涙が出た。

ハンカチで目元を拭いた。

ぐしょりと湿っていた。

赤。

目から出ていたのは、血液だった。

ああ、鈍くさい。

鼻や口から血が噴き出した。

みんなと同じように。

「駄目だ。手遅れだ」

「畜生、細菌兵器なんか使いやがって！  
どこもかしこも、秋の空だった。」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6697o/>

---

紅葉

2010年11月2日22時46分発行